



日本人が知るべき親日の歴史（第3回）

台 湾

株式会社せおん代表取締役
株式会社テイク・グッド・ケア代表取締役

越 純一郎

「日本は素晴らしい」「日本を見習いなさい」と子どもを育てる、「愛日家の国」台湾は、日本の安全保障上の重要なパートナーである。

米国の台湾関係法（TRA）という法律は、事実上の米台軍事同盟だが、産経新聞（2014/2/17）は、自民党有志約70名の会が日本版の台湾関係法を目指す、と報じた。代表者の岸信夫外務副大臣は、国防・外交に精通した議員とされ、菅内閣では防衛相に就任した。

バイデン大統領就任式に台湾の蕭美琴駐米代表が初の正式招待により出席し、米台新時代を象徴していた。

「愛日家」の国

台湾では、「愛日家」という言葉は日常用語である。これほどまで日本に心を寄せてくれる国はない。

東日本大震災ではどの国よりも多い総額253億円以上の義援金が台湾から被災地に寄せられた。被災翌々日には台湾から、28名の救助隊が日本に到着した。また、発電機688台、食品16.5トンなど、信じられないくらいの量の救援物資を提供してくれた。

李登輝総統からは日本語でメッセージが寄せられ、TVは送愛到日本311震災募款晩會（311震災の日本に愛を送るタベ）などのチャリティー番組を放映した。

リップンチェンシン

日本精神は最高の褒め言葉

台湾で日本精神と言え、約束を守る、礼節、誠実、清潔、勤勉、責任感、規律正しい」等の意味である。落し物を正直に警察に届けると「日本精神な子だね」、品質が良いと「日本精神な企業だ」と誉められる。

「日本式」は、信用できる、正直、マナーが良い等の意味で、また「中国式」はその正反対の意味である。

また、^{ハーリージャー}哈日族は、「日本に夢中」、「日本おたく」といった意味で、日本のアニメやファッション、J-ポップ、電化製品等が好きな若者のことだ。「很哈日（とってもハーリーだ）」という言い方もある。

「日本統治時代はパラダイスでした」

日本統治時代は、日清戦争で敗北した清が台湾を

日本に割譲した1895年から、終戦の1945年までの50年間である。それは台湾人にとってどういう時代だったのか？ 1932年生れの楊素秋氏は、次のように語る。

「日本統治時代は、パラダイスでした。良いことだらけで、何から話してよいかわからない」「(台湾人の)父は非常に日本を愛していました」

台湾各地に日本統治時代の建物が保存されている。蔡英文総統が執務する総統府（日本の首相官邸）は、日本時代の総督府だ。そこには現在も、児玉源太郎などの、歴代の台湾総督の写真が飾られている。

尚、元々の台湾人は、北京語を話す漢族ではなく、台湾語（＝閩南語）を話す閩族等である。台湾は、民族的にも言語的にも、中国とは別である。

「台湾の恩人 八田與一先生のお墓参りに」

台南の^{うきんとう}烏山頭ダム^{ダム}の計画、設計、工事を指揮した八田與一は、台湾で最も有名な日本人で、その功労を台湾では歴史教科書で詳しく教えている。

10年の工期と総工費5,413万円によって1930年に完成した烏山頭ダムは、当時、アジア最大、世界第3位の超巨大ダムだった（台湾国立清華大学資料）。その有効貯水量1億5,000万m³から16,000kmにわたって張りめぐらされた大規模灌漑用水路によって、「夏は氾濫、冬は乾燥の不毛の地」だった嘉南平原は一大穀倉地帯に生まれ変わったのだ。

八田と同じ東京大学工学部に学んだ上遠野均氏（カナダ、インドネシアでダム建設に従事、ダム工事総括管理技術者）は、「当時のダム建設として、世界最先端。日本国内より進んでいた。現在でも土木学会、特に、ダム技術者では、知らない人はいない」と述べる。

日本の土木学会第66回年次学術講演会（2011）で、台湾の柯武徳氏（正修科技大学）/莫素微氏（中華科技大学）は、「烏山頭ダムは、現在も、改造無しに現役供用中。八田技師は職員宿舎、病院、学校なども作って工事を推進。殉工碑には、殉職者134人の名を没した順に日本人/台湾人の区別なく記載した。八田夫妻が台湾で今も尊敬される理由は、義を重んじ、誠を

率先垂範、実践躬行する**日本精神**である。全く差別がなかった**八田技師**は永遠に台湾の人民から慕われる。」と講演した。

ダム湖畔には八田の銅像があり、毎年、命日の5月8日に慰霊祭が営まれている。また、台南のある主要道路は**Hatta Road**(=八田通り)と命名された。また、八田の故郷金沢市には「八田先生の恩を忘れないために」と墓参りに訪れる台湾人のグループがたえない。

いそえいきち すえながめくむ **磯永吉、末永仁**

この二人の驚異的な忍耐と努力による品種改良で開発された**蓬莱米**は、台湾の農業生産を飛躍させた。更に杉山龍丸により蓬莱米はアジアに普及し、インドの飢餓を救い、**アジアの緑の革命**を実現している。

飛虎將軍廟（正式名称：鎮安堂飛虎將軍廟）

1944年秋、台湾沖航空戦で被弾したゼロ戦搭乗員**杉浦茂峰**兵曹長（水戸市出身の志願兵）は、集落への墜落を避けるために郊外まで飛び、脱出が遅れ、落下傘降下中に機銃掃射を受け戦死。享年20歳。

自らを犠牲にして村人を救った彼を**飛虎將軍**として祀るため、1971年、廟が建設された。現在も廟守が朝は「君が代」、夕には「海行かば」を捧げている。

伊沢修二の献身、後藤新平の功績

日本に割譲された時の台湾は、**化外の地**として清が放置、放棄していた文明以前の土地で、社会制度も学校もなかった。欧米白人国の植民地支配は常に愚民政策だったが、日本はどの国でも常に**教育を施すことを重視**した。日本統治の際立った**特色**である。

詳細は割愛するが、台湾でも**伊沢修二**らが現地教育に心血を注いだ。教育以外でも様々な逸話が今に伝わる。**森川清治郎**巡査は**義愛公**として祀られている。第4代 台湾総督 児玉源太郎が民政長官に登用した**後藤新平**の土地改革、電気・水道・道路整備、アヘン撲滅、教育普及、産業育成、そして後藤が招聘した**新戸部稻造**による製糖業育成も特筆に値する。

戦後の白色テロ、2・28事件と坂井徳章

戦後、日本が退き、**蒋介石**の中国国民党(=漢族)が来ると、一転して台湾は暗黒時代を迎える。国民党は腐敗した前近代的集団で、民主化までの38年間に何万人もの**台湾人を虐殺**した(白色テロ)。1949年だけでも1万人超が逮捕され、その多くは死んだ。

2・28事件(1947年)で、拷問、公開処刑された**坂井徳章**(日本人を父の持つ弁護士)は、正義と勇気を貫き通し、「台湾人バンザイ」と日本語で最後の声を残した。

李登輝「日本人よ、もっと自信をもちなさい」

渡辺利夫著「台湾を築いた明治の日本人」は、「私が一日休めば、日本の近代化は一日遅れる」と、病を押しても勉学に励むパリ留学中の**古市公威**で始まる。帝国大学工科大学(後の東大工学部)の初代学長となった古市の門下生**広井勇**は、その後、幾多の逸材を近代日本に供給し続けた。八田與一もその一人だ。

そうした古き良き日本の精神は、今や、台湾にこそある。**日本人より日本人らしい方がたくさんいる**。我々のほうが、台湾に生きる**日本精神**を学び直し、日本人の高潔な姿を再確認したい。台湾民主化の父・**李登輝**元総統の言葉、「日本人よ、もっと自信を持ちなさい」にも応えたいではないか。

まいこんさん **蔡焜燦「日本人よ、胸を張りなさい」**

日本への割譲後、台湾住民に与えられた2年間の国籍選択猶予期間に、**蔡焜燦**の父は清国籍を選択し福建省に渡るが、腐敗した清を逃れて台湾に戻る。

日本の諸政策の素晴らしさを見た蔡少年は、日中戦争勃発の時、祖国日本への愛国心に燃えていた。

戦後、台湾を接収した中国国民党の兵士の服装、態度がみすぼらしく不潔で、規律正しい日本将兵との差に愕然とする。後年、半導体関連事業で成功し、**司馬遼太郎**「台湾紀行」に案内役**老台北**として登場する。彼は自らを「愛日家」と称し、熱い言葉を残している。

「日本人よ目覚めよ、そして自分の国を愛しなさい」

「私のかつての祖国である日本の若者よ、あなた方の先人達は実に立派であり、今でも台湾で**日本精神**が崇敬される事実の語るところを君たちの後世に伝えよ」

「機内から台湾島を何と美しい祖国だろうと見ると、**武田武士**の2番の歌詞が脳裡を過ぎる。この美しい国を**中国に盗られて**なるものか、熱い愛国心が湧き上がる」

現代的課題 と 歴史理解

台湾の親日史、日台関係史が現代的課題に直結することは、日台関係の特徴である。

だが、**外務省**のHPには本稿で扱った内容が1つもないし、また**NHK**が台湾を扱った番組「JAPANデビュー」に、日本からも台湾からも**抗議が殺到**した通り、課題はまだ多く、「知る努力」「知らせる努力」が必要なのである。

参考資料

- A 加瀬英明「日本と台湾」祥伝社文庫
- B 渡辺利夫「台湾を築いた明治の日本人」産経新聞出版
- C 楊素秋「日本人はとても素敵だった」桜の花出版
- D 蔡焜燦「台湾人と日本精神」小学館文庫
- E 李登輝「李登輝より日本へ 贈る言葉」ウェッジ